



「見たり、聞いたり、探ったり」No.299

通算 No.450

青木行雄

「^{はつうまさい}初午祭新木場「稲荷神社」
「初午のお祭り」
東京木材市場(株)内にて催行

毎年2月第1木曜日に東京木材市場内に鎮座する稲荷神社の祭事を市日に合わせて行なっているが2025年は初午の日が市日と重なった。

2025年2月6日(木)朝11:00時から、富岡八幡宮の神職をお招きし「初午祭」を催行した。市場会社市川社長を始め、問屋・買方・関係者が参列しおごそかに行なわれた。

^{はつうま}初午とは

2月の最初の^{うま}午の日、稲荷社の祭の日である2月の初午をいう。明治政府の新暦採用以前は、旧暦の2月最初の午の日に祝っていたというが、現在は新暦の2月最初に行なうことが多いという。

稲荷神のお祭りが行なわれる日

稲がなることを意味する「いなり」から、五穀豊穰・商売繁盛・家内安全を祈願してお祭りをする。

東京木材市場会社では毎年この日に節分の豆まきも行ない、関係者の中の年男に段上で豆まきも



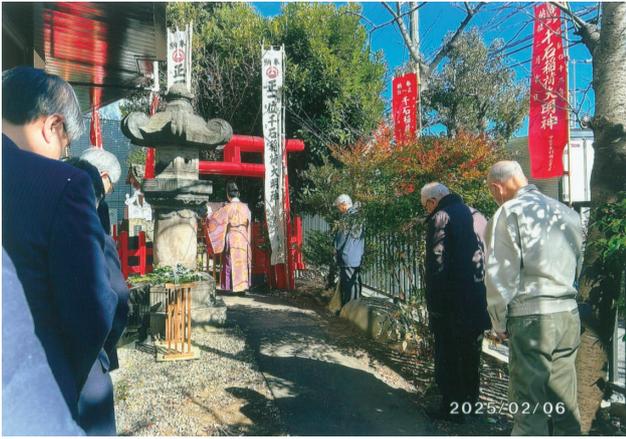
東京木材市場(株)市日、初午市日



市場会社主催の豆まき風景。毎年2月の初市日に行なっている。



東京木材市場(株)の事務所棟横の奥に鎮座する「正一位千石稲荷大明神」の宮社



初午祭に参列する関係者と富岡八幡宮の神職佐藤氏である。



稲荷神社の前にある燈籠が文面にある「石造燈籠」である。

お願いしている。そして来場者全員に恵方巻のすしも食してもらい、紅白のまんじゅうまでさし上げてお祝いする。なんと手厚いサービスであろうか。

市場事務所棟の隣りに「正一位千石稲荷大明神」の旗が何十枚もひらめいて狐の像と共に稲荷神社が鎮座している。普段はあまり気が付かず見過ごす人も多いようだが、年に一度この初午祭の日は参列し、神社がよみがえる。

この稲荷神社のわきにすばらしい「石造燈籠」が立っている。興味のある方は是非おたずね下さい。江東区の登録文化財で、江東第378号に指定された有形文化財（建造物）である。

少々くわしく説明すると、

いたくらしげかた板倉重形とくがわいえつなと言う方が、四代將軍徳川家綱の追善のために1681年(延宝9年)5月に上野寛永寺へ奉納した石造燈籠という。

後にこの市場元社長のみやしまえいち美谷島英一氏がこの燈籠を購入し、1919年(大正8年)に同社は設立され、本社を深川木場4丁目に置いたが、1976年(昭和51年)に新木場へ移転した。その際、燈籠と一緒に設置されたようだと市場ではいっている。

せきぞうとうろう「石造燈籠 いたくらしげかたほうのうかんえい 板倉重形奉納寛永寺旧蔵」

木材の町、新木場にも文化財があるとはすばらしい事である。毎年行なわれる、「初午祭」についてでした。



会社で市日に全員にふるまった「恵方巻」である。とても1回では食べきれなかった。

令和7年2月16日記

参考資料

東京木材市場(株)史より